

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520239

研究課題名(和文) 室町文化史料としての古往来とその作者・享受層に関する研究

研究課題名(英文) Study on the reader and the author of the primary textbook of the Muromachi period

研究代表者

小川 剛生 (Ogawa, Takeo)

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号：30295117

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)： 室町時代以前に成立した往来物の研究を行った。とくに素眼編『新札往来』と、一条兼良編『尺素往来』の文献批判を完成させた。前者は群馬大学附属図書館蔵新田文庫本を紹介した。後者は全国で30本に及び写本、および2種の版本の書誌を調査した。その結果テキストは2類4系統に分類される。古態をとどめるのは内閣文庫蔵橋本公夏筆本ほか三本である。これをもとに成立年代と執筆動機を考察した。その結果、応永30年(1423)頃、將軍足利義持・義量父子を意識して執筆されたことが明らかになった。この成果は論文として刊行した。今後、室町時代の政治史・文化史の研究に寄与すると思われる。

研究成果の概要(英文)： For Study of "Orai-mono", that was edited before the Muromachi period, I completed a bibliographical research about Sogan(ca.1367)'s "Shinsatsu-Orai" and Ichijo Kaneyoshi (1402-1481)'s "Sekiso-Orai". About the former, I have introduced the manuscript including Nittabunko collections of the Gunma University Library. About the later, I have investigated Manuscripts(over 30) and printed books. As a result the text is divided into two class 4 systems. Keeping the oldest state is three manuscripts, especially the one written by Hashimoto Kinnatsu in 1522. I discussed the motivation and writing age on the basis of this. As a result, the '30 Oei era (1423) around, it was written to be aware of the Shogun Ashikaga Yoshikazu, who was Yoshimochi-son. I was published as a paper this achievement. I suspect the future, to contribute to the study of political history and cultural history of the Muromachi period.

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：尺素往来 新札往来 一条兼良 室町文化 足利義持

1. 研究開始当初の背景

往来物は往復書簡の形式を取った初学者向け教科書の総称で、平安末期から江戸末期まで、「～往来」と題する膨大な作品が現存する。

その文体は社会人が習得すべき教養を、和風漢文で綴っており、百科全書的に当時の知識水準がよく反映されるばかりか、通常の文献には記されない風俗・慣習を知ることできる。

その内容は、誰もが知っておくべき、一般的祝賀的な知識が述べられ、具体的な歴史記述や思想的主張はあまり認められない、とされてきた。さらに諸本の関係が複雑であるのが常で成立年代や作者を容易には確定できない。このために歴史・文学の資料としては利用が難しく、もっぱら国語学・教育学の研究対象となってきた。現在スタンダードなテキストとして日本教科書大系・往来物大系があるが、これらを刊行したのも教育学者であった。

ところが、室町時代以前成立の、いわゆる「古往来」は、実在の人物を登場させたり特定の事件に取材する箇所が多くあり、時事的史料として見た方が適当な場合がある。中山忠親(1131-95)の『貴嶺問答』、実巖(1338-87-)の『山密往来』、一条兼良(1402-81)の『尺素往来』など作者が知られるものはもちろん、南北朝期の連歌師素眼筆の『新札往来』が数本伝来するなど、公家・武家・僧侶などの特定の読者層に対する実録的な著作と言える。

ほんらい、往来物は作者・読者の属する、ある特定の文化圏に向けた著作であり、時事的・限定的な内容であって、それが予想を越える多くの読者を得ることで、通時的・一般的な内容へと変貌してきたのである。したがって後人による改竄のない本文に対しては、かなり正確に成立年代を絞り込むことができる。成立年代が定位されることで、史料としての利用価値は旧に倍する。

2年ほど前から『尺素往来』の注釈的研究、さらに『新札往来』の諸本の調査に着手していた。その過程で明らかになったのは、室町文化の理解に不可欠であるにもかかわらず、そうした視点の研究が僅少であること、そして後世の流布本を底本とした、前記の日本教科書大系・往来物大系の問題点である。つまり個別の作品についての本文研究・成立・作者の考察が不十分であり、単に利用しやすいという理由で、誤脱改竄の目立つ本文が、スタンダードとして提供されているのは、各種

史料の文献学的研究が進んだ現在では、憂慮すべき状態と言わなければならない。個別の主要な作品の原態に関する、徹底的な調査と研究が、むしろその時代の専門家によって必要な時節となっており、研究費の応募に到ったのである。

2. 研究の目的

主要な古往来のうち、南北朝期～室町前期成立の『尺素往来』『新札往来』『山密往来』などを対象として、その文献学的研究を進める。予備的な調査研究の結果、『国書総目録』に未掲載の善本もあることも判明した。これらを紹介発掘した上で、相互の書承関係を明らかにし、信頼すべき本文を提供する。ついで本文・訓読・語注・補注・現代語訳・索引をあわせた研究書の刊行に進みたい。さらにこうした古往来相互の影響関係を明らかにするとともに、おのおのの作品と作者についての伝記研究を進める。玄恵・実巖・兼良といった当代の碩学が次々と往来物の製作に手を染めた事情、さらに彼らが想定した読者はどのような層かを探ることで、往来物を必要とした文化圏の内実を明らかにする。

さらに、古往来に取り上げられた語彙を網羅的に抽出し、国語学な用法のみならず、歴史的な背景からの注解を加え、時代のうちに位置づけ、室町文化のエッセンスとしての古往来の広い利用を促進させる。

3. 研究の方法

(1)諸本調査・伝本研究 古往来の諸写本について所蔵機関に赴いて、書誌調査を実施する。東京都内には宮内庁書陵部・国文学研究資料館・東京大学史料編纂所・前田育徳会尊経閣文庫・東書文庫などがあるが、そのほか、古往来について充実した内容を持つ、平井文庫(広島県三次市)、荏川文庫(新潟県佐渡市)、京都大学附属図書館(京都市)、龍門文庫(奈良県吉野町)、正宗文庫(備前市)などにも定期的な調査を実施する必要がある。

信頼すべき本文を研究するために、許可を得て資料のデジタルカメラによる撮影を行って、さらに紙焼写真を購入する。

(2)注釈的研究 とりわけ『尺素往来』については、(1)の成果を受けて、現在、前記橋本公夏筆本を底本とした翻刻本文、訓読本文、および語注、現代語訳からなる原稿を作成していく。

このような詳細な注解作業を、他のいくつかの古往来、とくに南北朝期成立の時事的な作品(『山密往来』『新札往来』など)に対

しても行う。そのことによって、古往来に特有の表現あるいは発想が指摘できるであろう。そしてこれを媒介として、この時代の往来物の、統一的・立体的な把握が可能になり、相互の関係を明らかにすることになる。また訓読・句読・傍訓などについても漏らさず吟味することになる。

(3)作者の伝記と享受文化圏の研究 古往来、とくに南北朝期のそれは、不特定の読者を対象とした書簡例文集というより、個別の社会・芸術など領域における、当時の関心事・話題を盛り込んだ時事的な性格が強く、作者と読者が同じ文化圏に属してそこにに向けて発信されたと見るべきであろう。そのため、こうした視点からの作者と享受した人々についての研究を行う。具体的には尊円親王(1298-1356)・尊道親王(1332-1403)ら青蓮院門跡の文化圏、連歌師でもあった素眼と時宗道場、『山密往来』の作者実巖と天台宗の学僧たち、一条兼良と室町將軍の文化圏などがある。これらの研究を通して、往来物執筆を促した環境、社会情勢を考察し、論文文化して公表する。

4. 研究成果

三年間の研究期間でほぼ計画通りの進行を見て、予想を超える成果を収めることができた。とりわけ、古往来の諸本調査では新たな伝本をいくつか発見し、成立や撰者について、これまでの通説を根本的に再考することになった。

まず、『新札往来』については、成立年代に程近い卷子本の断簡(東洋文庫蔵本=元徳二年写古文尚書卷六紙背、京都国立博物館蔵本)を見出した。これらの本文は貴重であるが、しかし完本である群馬大学附属図書館新田文庫本を新たに見出し、調査したことが大きい。実は『新札往来』には編者素眼の自筆本が既に数本報告されているものの、いずれも省略や闕脱があるのに対して、新田文庫本は書写年代こそやや新しいものの、しかるべき古写本を写したものと考えられ、内容に過不足ない本文を伝える。以後の研究の基盤とすることができる。その翻刻と校訂を終えて、発表予定である。

ついで『尺素往来』については、まずは国内の図書館・文庫に赴いて、現存する伝本の書誌調査を完了した。写本は25本ほどに及び、新出伝本5本を見出すことができた。とりわけ、東京大学史料編纂所蔵徳大寺本、福岡市博物館蔵天文13年(1544)写本、センチュリー文化財団蔵本(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫寄託)は、いずれも室町末期書写の古写本であり、本文研究上多大な意義を有する伝本であった。その結果、本書の流布が16世紀に急速に始まり、かつ広きにわた

ったことが確認できた。また、南九州、大隅国での書写校合の事跡がいくつか認められることも重要である。その過程でいくつかの異本が生じていったことも明らかになってきた。流布本の位置にある群書類従本は改竄された本文の系統に属する。

また本書の版本についても調査した。版種は二種で、慶安4年(1651)版本が先行し、寛文8年の奥書を持つ無刊記版本は後出であることを指摘した。

さらには龍門文庫本(2本)、飢肥伊東家蔵本・謙堂文庫旧蔵東書文庫本(阿波国文庫本の写真版)など、これまでその存在は知られていながら、十分活用されていなかった伝本をも詳しく調査することができた。

これらの書誌調査の結果を総合して、伝本研究に着手し、多様な伝本を二類四系統に分類されることを明らかにした。その中では、内閣文庫蔵、大永二年(1522)写橋本公夏筆本および、東京大学文学部国語研究室蔵本・東京大学史料編纂所蔵徳大寺家本の、計三本の内容がもっとも古態をとどめていることも判明し、その本文をもとにして、本書の内容の分析研究、とりわけ注釈に着手した。

その考察の結果、本書の成立は、これまで通説とされてきた年代を大幅に遡って、応永30年(1423)前後であり、兼良のごく若年期の作品であることを明らかにした。そして本書は、兼良をその頃重用し始めていた、室町幕府四代將軍足利義持・義量父子を意識して執筆されたことをも推定した。このことは、室町時代の政治史・文化史の研究にも大きく寄与すると思われる。

以上の考察の結果を「尺素往来の伝本と成立年代」にまとめた。この論文は本年8月に刊行予定である(『池田利夫先生追悼論文集』笠間書院)。

なお、『尺素往来』の注釈および『新札往来』の校訂本文についても、一書として刊行されることが決定しており、その準備を進めている。

そのほか、研究の過程で明らかになった、古往来の成立に関係した、南北朝期から室町期にかけての学者・僧侶の著作・伝記を研究していくつか論文にまとめた。また室町幕府の文化政策についても考察し、中公新書『足利義満』ほかの著書・論文を執筆・発表した。これらには古往来の記述を史料として援用したところが多々ある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

小川剛生, 尺素往来の伝本と成立年代, 『池田利夫先生追悼論文集』(笠間書院), 査読無, 2014, 1-30

小川剛生, 伏見院の私家集蒐集とその伝来について, 斯道文庫論集, 査読

無, 48, 2014, 183-212,
小川剛生, 卜部兼好伝批判 「兼好法師」
から「吉田兼好」へ, 国語国文学研究, 査
読無, 49, 2014, 113-130,
小川剛生, 足利義尚の私家集蒐集とその
伝来について, 和歌文学研究, 査読有, 106,
2013, 52-67,
小川剛生, 心珠詠藻の作者 戦国大名と
在国公家とのほざまにて, 文学 (岩波書
店), 査読無, 13(5), 2012, 45-56,
小川剛生, 医道と歌道のあいだ--丹波忠
守の事蹟を考証し、徒然草第一〇三段の
解釈に及ぶ, 藝文研究, 査読無, 100,
2011, 38-61,
小川剛生, 洞院公定をめぐる書物-字書・
部類記・未来記, 京都女子大学宗教・文化
研究所研究紀要, 査読無, 24, 2011, 87-95

〔学会発表〕(計 1 件)

小川剛生, 五位と六位の間 官位表記か
ら考える, 軍記と語り物研究会大会, 大妻女
子大学, 2013-08-21

〔図書〕(計 1 件)

小川剛生, 中央公論新社, 足利義満-公武
に君臨した室町將軍, 2012, 298

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 剛生 (OGAWA, Takeo)

慶應義塾大学・文学部・准教授

研究者番号: 3 0 2 9 5 1 1 7